

伝えよう、ものづくりの楽しさを子どもたちに ～「ものづくり教室」20年の取り組み～

金属労協組織総務局主査 上口 智子

2003年12月20日、パイオニア労働組合の協力のもと小学生を対象とした第1回「ものづくり教室」を開催してから、20年が経過した。本稿では、ものづくり教室の目的と第1回開催概要を紹介するとともに、現在全国に波及していった経過について報告する。

はじめの第一歩

金属労協は、国および地方自治体に対する政策・制度要求で「ものづくり教育の拡充」を主張する一方、子どもたちの興味を引き出すためのきっかけとしていくことを目的に、「ものづくり教室」の取り組みを展開してきた。金属労協第42回定期大会（2003年9月2日開催）で決定した2004年度活動方針に、次のとおり明記している。

（2004年度活動方針より抜粋）
技術・技能の継承・育成、将来の国内ものづくり産業の基盤強化のためには、健全な職業観の育成など、人材育成が何よりも重要であり、戦略的なものづくり教育の構築が必要です。金属労協は、その具体化の1ステップとして、小学生に対するものづくり教育の拡充に焦点を絞り、労働組合として、それぞれの地域において、ものづくりや科学の楽しさを子どもたちに直接訴えかける活動を展開します。

この方針に基づき、まずは金属労協の提案に賛同いただいた電機連合パイオニア労働組合所沢支部を中心に、パイオニア労組本部、電機連合、パイオニア株式会社をサポートにより開催、所沢市や市教育委員会も後援している。

第1回のテーマは「DVDプレイヤーの組み立て」。多数の応募者の中から抽選で選ばれた小学4年生以上の15名が参加した。当時の金属労協機関誌では、DVDプレイヤーの仕組みを学んだ後、実際に子どもたちが電動ドライバーを使ってビス打ちをし、40～50分かけてDVDプレイヤーの組立作業を行っている。最後の検査で完成が確認されると、破顔一笑、周囲からも盛大な拍手が送られた、と報告している。また、パイオニア労組所沢支部の皆さんがプログラムを作り上げていった苦労話も記されている。

パイオニア労組所沢支部役員の感想（機関誌2004年冬号より抜粋）
私たち執行部は、慎重に準備を進めてきました。何度なんども会議を開き、今回のプログラムを作り上げるに至りました。子ども

たちはどんなところに興味を持つのか、どの程度の難易度が適当なのか、最も苦労したところです。第1回に向けて試行会も行い準備した結果、参加者アンケートではすべてのお子さんから楽しかったと感想をいただきました。



所沢市内の小学生15人が参加した第1回ものづくり教室（2003年12月20日）

お父さんにも手伝ってもらって兄妹で一生懸命作っています (2024年4月27日、岡山県、メーデー会場にて)



なお、開催当日のマスコミの取材に対して鈴木議長(当時)は、「ものづくり教室を、とくに組合のOBの人たちに対する生きがいの場として全国各地で開催するのが将来の夢」と語っている。

全国への波及

2004年には新たに、金属労協北信越ブロック新潟金属部門連絡会・連合新潟金属部門連絡会が「扇風機の組み立て」教室を開催した。以降、2005年には連合東京金属部門連絡会が「鋳物でアクセサリー製作」、2006年には連合富山金属部門連絡会が「扇風機組み立て」、2007年には茨城県でパイオニア労連が「紙コップスピーカー製作」を新たに開催するなど、定期的なものづくり教室の実施が、拡大・定着していった。

その結果、2014年時点では、金属部門連絡会のある46都道府県のうち、32都道府県で「ものづくり教室」が定期的に開催されることとなった。また、開催にあたっては、NPO法人と連携して開催する県もあった。

この間金属労協は補助金を交付するなど予算面でのサポートの他、参考資料として「政策レポート」でものづくり教室開催のノウハウを発信した。政策レポートの具体的な内容は、①ものづくり教室の開催実績の紹介、②労組が行う「ものづくり教室」の目的と意義、③開催方法(相談先、誰が実施するのか、対象者、開催場所・内容、安全対策、費用)など。このうち「開催内容」では、以下のように提案している。

①会社や事業所の特徴を活かしたもの

できれば、会社や事業所の製品・技術などを活かしたプログラム、組合員のみなさんの仕事に関するプログラムが良い。「工作」にこだわらず、「実験」でも良い。
*例えば金属加工、機械組み立て、あるいは原理的な仕組みが理解できるようなもの。
*職場と同じ道具が使えればなお可。

(大人の道具を子どもたちは喜ぶ)
②市販のキットなどを使ったもの



第55回定期大会会場に「ものづくり教室コーナー」を設置。子どもたちが作った完成品を展示した(2016年9月6日)

「ものづくり」にかかわる様々な工作キットが販売されているので、それを利用するのにもひとつの手段である。安価なものもあるが、やや高価なのが難点。

例・ラジオ、蓄音機、スピーカー、ロボット、蒸気機関車、飛行機、ペトロボトルロケット、風力発電機、ソーラー工作、モーター工作、電子工作など

ものづくり教室の現在地

20年前に始まった「ものづくり教室」もいまでは全国に広がっている。金属労協政策企画局の調べによると、2022年9月～2023年8月の1年間に46都道府県中38都道府県・

39会場で実施されている。モーターカー工作(二輪・四輪)、ソーラーカー工作、ストローハウスづくり、電波時計製作、ソーラーバッチ製作など作成物も幅広い。

金属労協が毎年策定している「地方における産業政策課題」の2024年版では、「一般的に、自治体などが開催しているものづくり教室では木工などが多く、金属を使用したものや機械の組み立てなどは多くない。金属の労組を中心とした『ものづくり教室』を継続的に展開していくことが重要だ」と指摘している。併せて2020年度から小学校でプログラミングが必修化されていることから、「ものづくり教室」においても、プログラミングの要素を取り入れることも推奨している。実際に、和歌山県ではプログラミング教室を実施するなど、徐々にではあるが広がりを見せている。

今まさに、ものづくり産業を支える人材確保・育成が課題となっている。これからのものづくり産業を担うであろう小学生が「ものづくり」に親しみ、そして興味を持ってもらうためにも、金属労協では引き続き、地方ブロックを通じて地方連合金属部門連絡会での「ものづくり教室」の取り組みを推進していく。